

From The Alumni Association

同窓会だより

■ 新たな試み ICOI・F.P.I.T.のコース始まる

同窓会創立以来、新たな試みとして本年度はふたつのコースを開催、既に前倒して3月よりスタートいたしました。

ひとつは、ICOI (International Congress of Oral Implantologists) のコースです。世界89カ国でおよそ20,000名を擁す世界最大の口腔インプラント学会です。国際的なネットワークで最新の歯科医療情報と研修の機会を会員に提供し、ICOI所属の歯科医師は経験や技術に応じて3種類 (ICOI Fellowship・IPS Mastership・ICOI Diplomate) の認定資格を授受しています。今回は、ICOI Fellowship取得のためのコース (5回の講座) です。本学咬合修復学講座の佐藤博信・松浦正期両教授を始め戸寛史准教授他関係各位の先生方のご尽力で実現いたしました。講師陣は、本学で研究・教育と日夜奮闘ご活躍されておられる先生方をお迎えしております。グローバルな観点

でのインプラント治療を含む歯科治療を更に向
上させ、社会貢献できることを目指し企画いた
しました。

ふたつ目は、既に第3回目の開催となります
F.P.I.T. (Fair Play Implant Technique) の
コース (6回の講座) です。やはり本学の咬合
修復学講座口腔インプラント学分野の研究生
でかつ同窓生による講師陣で構成され、客観
的な視点に立ったインプラントロジスト育成のた
めのコースです。今回、同窓会は共催させてい



ICOI Fellowship養成コース第3回

ただきました。

同窓会学術委員会といたしまして、医療人としての倫理観、探求・研究心、教育、医療技術などより一層の卓越した歯科医師への道しるべになればと考えております。

末筆になりますが、本学のご発展ならびに同窓会員の皆様方に寄与できますことをご祈念いたしますとともに、今後とも同窓会にご指導ご協力の程宜しく願ひ申し上げます。

学術常務理事 岩本 憲明 (2期)



F.P.I.T.インプラントセミナー

■ 同窓会通信 「第12期福岡歯科大学同窓会の船出」

平成22年5月29日、平成21年度定時評議員会及び定時総会が開催され、宮口巖会長のもと63人の第12期役員が決定し、平成21年度収支決算・平成22年度収支予算案として事業計画が承認され、新たな気持ちでの出航となった。そんな中、少し心配な事もある。平成21年度末で3,650名の卒業生の内、同窓会正会員は2,191名・準会員は608名である。正会員の内、平成21年度に会費を納入したのは、なんと1,848名しかいない。現在この人数の会費収入

でなんとか同窓会の管理運営を行っている。しかし10年後に、会費納入の免除会員が出てくると果たして安定した運営ができるだろうか？ 毎年会費収入は減少し、いずれは現在の1/3程度の会費収入しか見込めない時代がやって来る。早目に手を打っておかなければ社会情勢と同様の高齢化社会の波が同窓会にも押し寄せ、入会率が極端に少ない15期以降の先生方に多くの負担をかけてしまうと、この船もこの荒波に耐える事ができるだろうか？ この船を

支えるには多くの会員が必要だ。

未入会の先生方が、入会しやすい環境を整備し、より魅力ある同窓会活動を検討し、会員としてのメリットを増し、多くの先生方の賛同を得て、いずれは卒業生全員が正会員となり、絶対に沈む事の無い今以上の大型船に乗り込んで、全世界に航路を広げて行くよう第12期執行部は船出した。どうか同窓会活動にご理解いただき、ご協力をお願い致します。

副会長 佐伯 和道 (4期)

卒業生トーク

「∞ 無限大」 長 也寸志 (9期)



こんにちは、9期卒の長也寸志です。私が卒業したのは昭和62年ですから、もう歯科医師を24年経験したという事になります。その間歯科業界も目まぐるしく変化をしてきました。昔の患者は素直で良かったとか、保険点数が高かったとか、歯科医師が数人集まるといつも過去の栄華? 時代の話で盛り上がります。

まるで今は夢も希望も全く無いように聞こえますが、はたしてそうでしょうか？ 答えはNOです。現在から将来に向

け我々歯科業界に求められているものは無限大です。歯周病と全身疾患との関わりは勿論の事、インプラントや審美、とりわけ介護や福祉との連携はますます求められてくるでしょう。

当院では一般外来に併設された訪問歯科診療部門もあり15年前より積極的に取り組んでいます。他にも障害者歯科部門を3年前に開設し力を入れています。また歯科医療施設には珍しいかもしれませんが、障害者就労移行支援事業所も法人の事業として併設しています。色々な状況下におかれた方たちに、平等に口腔機能を維持改善していただきたいという思いで臨んでいます。母校の福岡歯科大学は歯科医療のみならず、福祉や介護にも目を向けた施設をもっています。これは在学生の皆さんにとっても貴重な、将来に活かせるものではないでしょうか。これからの皆さんの躍進に期待します。



就労移行支援事業所の開所2周年記念式典